



○「1学期終業式講話」

隠岐養護学校公式Instagramより転載 ⇒

この1学期、みなさんの高校生活の大切な教育活動が、新型コロナウイルス感染症拡大の影響を少なからず受けました。こうした状況がもう2年半も続いています。過酷な状況の中にあっても、自分を律して、大変落ち着いて学習や部活動に取り組んでくれたことに感謝しています。

学校というのは、決まった時期に学校行事や式典、また部活動の大会や発表会などが行われることで、時の移り変わりを感じ、社会生活がきちんと送れていることを認識する場であり、また自分が社会の一員であるということを実感する場でもあります。

また、高校時代は、自立した大人となるために、家族や親戚以外の、同年代との付き合いや地域を含めた大人との関わりを通して社会性を身につけていきます。学校は、みなさんにとって大切な場所であるということを、今一度しっかりと感じるとともに、その場をみんなで守って欲しいと思います。端的に言えば感染症対策をしっかりやっていくということです。

人は、とかく見えない不安や恐怖にとらわれたとき、同じ人間をおやみに脅威に感じたり、攻撃の対象と考えたりすることがあります。いらだちを人にぶつけてしまうこともあります。でもそういう時だからこそ助け合うことができるのも人間です。「人間性」を良い形で発揮できるかどうかは自分次第です。ぜひ気遣いの細やかな素敵な高校生になってください。

校長室だよりでも書きましたが、6月に3年ぶりに開催された隠岐の島ウルトラマラソンに参加しました。今回ボランティアを含め6回目の参加でしたが、私がウルトラマラソンに参加したのは、当時勤務していた隠岐養護学校で働く先生たちが、素敵な大人の姿を生徒に見せることが特別支援教育のひとつだと考え、いろんなことに挑戦する姿、何事にも真摯に取り組む姿、こまやかな気遣いをする姿を生徒に見せておられたことに感銘を受けたからです。

当時私は教頭だったのですが、特別支援学校にこれまで勤務したことがなかった自分に、そして授業をするわけでもない自分に何ができるのかと考えた結果の一つとして、ウルトラマラソンへの挑戦、苦手なマラソン克服に向けて練習をしっかり積むことへの挑戦を決めました。

2年前に大会が中止になってから、自分で決めた大会が再開されるまでの練習ノルマが、年明けからの感染拡大などの影響もあり5月中旬時点で達成がほぼ難しい状況になっていました。練習ノルマは休日中心に年間1200kmとしていました。ほぼあきらめ、自分への言い訳を考える日々が続きました。しかし、5月下旬から思い直し、平日早朝練習をするようにし、なんとか大会直前でノルマを達成できました。あきらめず挑戦しようと思い直したのは、県総体で見た生徒のみなさんの熱いプレー、あきらめない姿勢、やり切ろうと挑戦する姿、はげまし助け合う姿を見たからです。自分をはずかしく感じ、思い直しました。自分に課したノルマを達成できてなかったら、完走率の低かった今大会では完走できなかったかもしれません。

3年生の皆さんは、受験・進路決定に向けた「本気の夏」を迎えています。努力を重ねる素敵な3年生の姿を1・2年生に見せてください。2年生は、部活動や学校行事などの中心的な役割を担っていきます。素敵な姿を1年生に見せてください。1年生は高校生になり自立していく姿を地域の方や中学生に見せてください。そして全学年その素敵な姿を保護者に見せてください。きっと応援団が増え、仲間も増え、自分の力となって返ってくるはずです。リーダーとは人に良い影響を与える人です。みんながリーダーとなる学校であって欲しいと思います。

みなさんにとって、この夏休みが有意義な日々になることを願って、終業式の話とします。



※写真は、隠岐養護学校の先生です。今大会、隠岐養護学校ののぼり旗を背負って50キロを完走されました。在校生はもちろん、卒業生や保護者も勇気をもらったと思います。地域の方やランナーの方たちは、きっと学校の応援団になってくれたと思います。部活動なども同じだと思います。その活躍や取り組みは、きっといろんな人に勇気と感動を与え、学校やそれぞれの応援団を増やすことにつながっています。